株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

第107期（自平成18年4月1日至平成19年3月31日）の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申しあげます。

当社グループの連結業績は、営業利益1,820億円、経常利益1,472億円、当期純利益1,024億円となり、一方、当社単独の業績は、経常利益626億円、当期純損失2,492億円となりました。

当社の剰余金の配当等に関する基本的な方針は、株主のみなさまに安定的な剰余金の配当を実施するとともに、財務体質の強化および業績の中長期的な向上を踏まえた積極的な事業展開に備えるため、内部留保を充実することにあります。

当期におきましては、単独決算において多額の当期純損失を計上した結果、利益剰余金がマイナスとなりましたが、この損失の計上により将来の財務リスクが軽減されたこと、現金支出を伴う損失ではないこと、また、今後も収益は回復基調にあり、継続して安定的な収益およびキャッシュ・フローを見込んでいることから、期末配当金はその他資本剰余金からの配当とし、1株当たり3円とさせていただきます。

なお、単独決算における多額の当期純損失に鑑み、当期の役員賞与は支給しないことといたします。

ユビキタスネットワーク社会の進展とともに、IT（インフォメーションテクノロジー）は、社会のあらゆるところに浸透し、大きな利便性と変化をもたらしています。企業においては、ITは業務プロセスとの結びつきを深め、単なる効率化の手段にとどまらず、事業活動展開との一体化が進んでいます。

こうした中で、経営基盤、社会基盤としてのITシステムは一層高度化し、以前にも増して高い信頼性が求められております。当社グループは、「常に新しい価値の創造に努め、強いインフォメーションテクノロジーをベースに、お客様の求める高性能・高品質のプロダクト、サービスによるトータルソリューションを永続的に提供することにより、利益と成長を実現し、国際社会・地域社会との共存共栄を図る」ことを目標としています。お客様の置かれている環境、ビジネスや課題を真に理解したうえで、お客様の成長と発展に寄与するIT活用を形にしてまいります。また、実際に人やものが動く現場でのITの活用を進め、お客様のビジネスや社会生活に革新をもたらすことを目指してまいります。さらに、社会活動を広く支えるITシステムの運用品質向上にも一層注力してまいります。

当社グループは、これらを通じ、お客様に信頼されるパートナーとして、お客様とともに成長することを目指しております。

株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成19年6月

代表取締役会長　秋草　直之（左側）

代表取締役社長　黒川　博昭（右側）

三重工場 ロジックLSI量産 第1棟、第2棟
基幹IAサーバ
光伝送システム
UNIXサーバ
PCサーバ
ウェーハ
ロジックLSI
デバイスソリューション
携帯電話
HDD
(ハードディスクドライブ)
POSシステム
FPcodeを応用した
電子おみくじサービス
パソコン
テクノロジーソリューション
JoinMeeting
ユビキタスプロダクトソリューション